

遺跡から名大の校舎が？—西二葉町遺跡発掘調査より—

現在の県立明和高校の敷地は、かつては西二葉町と呼ばれ、そこには名古屋帝国大学の校舎がありました。このたび、同地の遺跡発掘調査が行われた結果、名帝大の校舎と思われる遺構が出土しました。

江戸時代、ここには尾張藩付家老で犬山城主でもあった成瀬家の別邸がありました。明治維新後は、愛知県農事試験場などを経て、1907（明治40）年には愛知県立第一中学校（現在の県立旭丘高校）が移転してきましたが、38（昭和13）年に現在地の新出来町へ移りました。

そして1939年、名帝大が創立されました。翌年には理工学部が設置されますが（42年に工学部と理学部に分離）、東山地区の校舎が間に合わず、愛知一中跡を理工学部の暫定校舎として使うことになりました。大学本部もここに置かれたのです。少しして理学部と本部は東山へ移りますが、まだ工学部は西二葉に残っていました。しかし、1945年5月の名古屋大空襲により校舎の多くを

焼失、工学部は他所への移転を余儀なくされました。

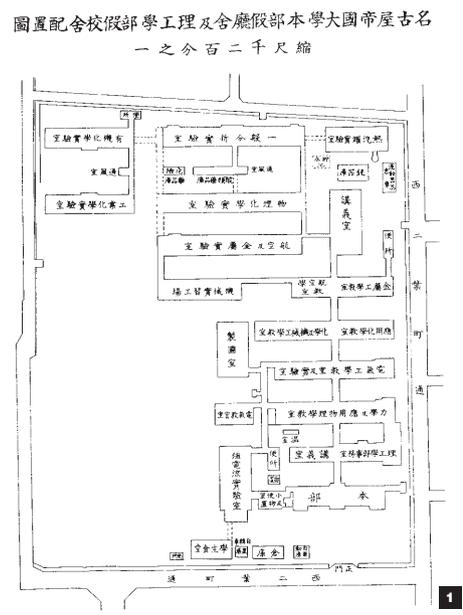
名大工学部が去った跡には、県立高等女学校、その後も明和高校が置かれて現在に至ります（一部は住宅地）。そして、同校の校舎建て替えを前に、2024（令和6）年5月から愛知県埋蔵文化財センターによる「西二葉町遺跡」の発掘調査が行われています。

この調査において、敷地の東部中央（明和高校旧北校舎北側）から、レンガが積まれたコンクリート基礎が発見されました。レンガに年代を示す刻印等はありませんが、当時から現在までの各種図面を比較検討した結果、名帝大が使っていた愛知一中元校舎の基礎の一部である可能性が高いことが分かったのです。この建物基礎の根元部分からは、空襲で焼けたと考えられる焼土塊が見つかりました。陶器片、ガラス片、瓦片を多く含み、空襲の激しさを物語っています。

〔参考文献：『西二葉町遺跡発掘通信』第2号〕



- 1 名古屋帝国大学西二葉地区の校舎配置図。写真3、4は、電気工学教室・実験室の基礎と考えられている。
- 2 西二葉の名古屋帝国大学正門と本部棟、名帝大学生。
- 3 出土した名古屋帝国大学校舎の基礎（写真3、4は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター提供）。現在、さらに詳しい調査が行われている。
- 4 基礎のレンガ部分。



BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046
Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp